

---

# バッタが鳴いた

アライブ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

バッタが鳴いた

### 【NZコード】

N3160D

### 【作者名】

アライブ

### 【あらすじ】

ただ浪費するだけに生きている人類の運命とは、いつたい・・・?

誰かが言つたのを覚えてる。

生と死との壁は薄くて厚い。

どういう意味だ？

俺はずつと考えてた。

\*

ある日、俺は一人になった。

家族が死んだとか、

そういうものではない。

みんな、いなくなつたんだ。

この日本という国、

いや、おそらく世界中で、

人間が、消えた。

でも俺はここに居る。

無人の喫茶店でぬるい紅茶を飲みながら、

秋のすゞいやすさに感謝しながら、

俺はこの日記とも自分ともいえない、記録を残している。

もつ向日田だらう。

みんなが消えたのは。

最近、なにもかも馬鹿らしくなってきた。

俺は何の為に生きている？

少しでも、自分という存在を主張したいから、

こんなもの書いているんだとおもふ。

そういえば、こんな映画があつたよな・・・。

自分を残して人間が一人もいなくなる奴。

あれ、面白そうだなつて思つたけどさ、

自分に降りかかると、とんでもねえな。

\*

バツタが鳴いた。

え？ 俺今、なんて言った？

バッタつて鳴くのか。

初めて知ったよ・・・。

違つ、違つ！

それは妄想じゃないのか？

もうこの世には、俺をのぞいて、生物は存在しないのに

バッタの声が聞こえるわけがないだろ？

・・・ああ、でも

バッタに訊いてみたいな。

キミはなんで、飛ぶことより跳ぶことを選んだんだい？

\*

世界はもつ俺のモノなのに

なんでこんなに空しいんだる？

ゲームもマンガも、なんでもやり放題だぜ？

ハンギーなんて天国だ。

・・・でも、

俺達人間つて、コンビニに支配されてたんだな・・・

そこから一歩も出でず、暮らせることだが、

俺は癪だったのかもしない。

「なあ、コンビニよ」

俺は、言った。

久しぶりの日本語は、なんか変な感じがする・・・。

「お前は、スイカやメロンや、そういうものは売つてないんだろう?  
お前、駄目だな」

なにいつてんだろ。

「やうだな、今度出してみようかな。在れば買つんだひ?」

コンビニが、そう言つたような気がした。

\*

生と死は紙一重。

誰かが言つたのを覚えてる。

それとも俺の妄言か?・・・どうでもいいや。

とにかく俺は、それに強く同感してしまった。

ただ浪費する俺はもはや、人間と言えるのか？

食つて、寝て、食つて・・・

それを繰り返す人類は、生物と言えたのだろうか？

俺はもう、胸を張つて反論することができないよ・・・。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3160d/>

---

バッタが鳴いた

2010年12月30日02時48分発行